



図書の管理

理学部教授 八木 康 一

今年米国からN教授を外人講師として迎えこれから一年間我々の研究室と一緒に研究することになった。ところが彼に必要な文献を探す段になって、どの本はA図書館にある筈、みあたらなければB図書室にあるというようなことを繰り返すうち、その面倒くささにいらいらしてきた。この大学の図書の管理方法はもう少し何とか考える必要があるのではないかとあらためて気がついた。新入学生や新任の研究者は、N教授にくらべて日本語ができるだけましとしても、本のありかを一々暗記するまで夫々おなじことを繰り返すわけで、不親切なことである。我々はいつのまにか本の所在を覚えてしまったのでその不便を余り自覚しなくなっていたにすぎない。

一般に必要な雑誌類を身近におこうとするし、又そうあるべきものとする習慣が我々にはある。従って多くの研究者が必要とするものは、重複して購入されることになり、一方予算には限度があるので自分の身近にないものはどこにあるか覚えておいてまにあわせることになる。しかし不幸なことに本の値段は年々高くなり、当然身近にあるべきものでも一学科程度の小グループが続けて負担してゆくことはとても難しいと考えなければならなくなって来た。今迄購入していたもののうちでも止めなければならないものができるにも拘らず、一方では研究報告は増大し新しい雑誌が次々に刊行されている。この傾向はますます助長されるだろう。従って今迄のような研究グループ本位、学科本位の図書管理方法は近い将来変えざるを得ないのではないだろうか。

このような経済的圧迫のもとでは、山崎教授が“集中と分散と”に述べておられるような図書の一括中央管理と文献複写サービスの完備とを考えなければならないだろう。中央図書館に対する自然科学系教官の関心は一般に低い。私の場合も関係のある本があるとも思えない中央図書館には全く無関心だった。しかし一つの方法としては、差当たり中央図書館の充実と活用を自然科学系の人達も切実な問題として考慮する必要があるのではないだろうか。将来にわたることであるが、いくつかの学部図書館を併合して理工系分館等をつくることを考えてもよいだろう。

◆ 会 議

第35回 図書館委員会

<と き 昭和43年11月20日(水)>

<ところ 附属図書館会議室>

1. 科研費の使途及び前回の継続審議について

館長から前回委員会で継続審議となり、各部局の意向を聞くために行なったアンケートの結果報告があり、続いて審議の結果次のとおり(主な事項)決定した。

- (1) Chemical Abstracts を継続購入する
- (2) 科研費で Science Citation Index を購入する (I.B.Z. は前回承認済み)

2. 共通図書費の使用について

館長から学部共通図書についてこれ迄の経過報告があり、続いて審議の結果次のとおり決定した。

- (1) 人文系部局から申し込みのあった朝日新聞(マイクロフィルム版)は人文系配分予算の枠で購入する
- (2) 自然系部局から申し込みのあった Materials and Technology と、Directory of Computerized Information in Science and Technology を購入する

尚共通図書費は年度予算であり残額の使用については再度購入希望をとることとし、その期限を昭和44年1月末日迄として各部局宛連絡することとした。

3. そ の 他

本館で購入する図書、資料等について各委員から意見希望等が述べられた。

第36回 図書館委員会

<と き 昭和43年12月4日(水)>

<ところ 附属図書館会議室>

1. 教養分館設置に伴う諸規程について

館長から教養分館新営のためのこれ迄の経過説明と、さきに承認された諸規程案は今回医歯学分館と水産分館の設置を見合わせたことに伴い一部修正したい旨計り了承された。

2. 第2種閲覧個室の利用について

館長から第2種閲覧個室の利用期間が12月31日で満了となるため1月1日以降3月31日迄の利用者を募集中心であるが、入室者決定のための選考は図書館委員会開催期日等の事情により今回は本館が決定したい旨計り了承された。入室者の選考基準は次のとおりである。

- 第1順位 博士及び修士論文作成期日が昭和44年3月末日迄の者
- 第2順位 新規申込者
- 第3順位 前回継続申し込みをして利用出きなかった者

尚現在第1種閲覧個室を助手に利用させているが今回も申し込みがあれば利用を許可することとする。

全学図書掛長会議

<と き 昭和43年12月9日(月)>

<ところ 附属図書館会議室>

1. 共通図書費の申し込みについて

部長から去る11月20日開催された第35回図書館委員会の報告と、I.B.Z. (本館所蔵欠号分) 及び Science Citation Index を1968年から継続購入する旨説明があった。

2. 欧文雑誌チェックリストの所蔵確認について

部長及び担当掛長から本学洋雑誌チェックリスト整備のための各部局の協力要請があった。

3. 教養分館の設置について

部長から教養分館設置申請についての経過報告があった。

4. 道地区大学図書館協議会について

部長から第18回道地区大学図書館協議会の報告と同協議会に設けられた「相互協力のための調査委員会」の目的等について説明があった。

教養分館設置準備委員会について

教養分館設置に伴って準備しなければならない事項のうち、関係諸規程(案)については、去る12月4日に開催された第36回図書館委員会で承認をみたが、その他の関係事項についても早急に検討しなければならないため、この度標記委員会が設けられた。今後はこの委員会で関係事項を審議し図書館委員会に報告することとなる。委員会は、本館側、館長、部長、整理閲覧課長、及び課長補佐、又教養部側、教養部長、図書館委員及び事務長、により構成され、必要に応じて関係者の出席をお願いすることとなっている。

第1回委員会は去る12月12日本館会議室に於て開催され、館長から委員会を設けた主旨と委員会で扱う関係事項についての考え方を次のように述べた。

1. 制度の問題 基本的な事項については図書館委員会です済みであるが、設置に伴う分館委員会規程、閲覧規程等の問題
2. 建物の問題 閲覧スペース、各室備え付け物品等施設関係の問題
3. 運用面の問題 図書館委員会です承された諸規程(案)の運用、分館長、分館委員会委員の推せの方法、その他必要な事務的事項等の問題

以上について各委員の意見を求め承を得た。

続いて今回の協議題の審議に入り、部長から教養分館建物の閲覧室、書庫等の位置及び使用方法等について本館の方針を説明、審議の結果了承されたので、本館ではこの決定に基づき事務局施設部と交渉を進めることとなった。

第2回委員会は去る12月25日本館会議室に於て、今回は施設部から施設部課長をはじめ関係者の出席のもとに開催された。審議は教養部側から教養分館建物の内装、外装について要請をもとに進められた。尚専門的な面については施設部に依頼することになった。

附属図書館機械化検討小委員会

第5回小委員会 ― 43年12月18日 ―

小樽商科大学附属図書館を見学、館長、事務長からP.C.S.による図書貸出し業務及び発注、受入整理業務について、説明を受けた。

又同館ではI.B.M. 29型印刷穿孔機による貸出し業務と受入関係カードの穿孔整理及びリコータイパーによる欧文目録カードの複製を行っており、演算・印刷等の処理は同大学計算センターの電子計算機システムを利用している。

北海道地区大学図書館協議会“相互協力のための調査委員会”を設置

昨年10月21日藤女子大学に於て開催された第18回北海道地区大学図書館協議会で設置をみた標記委員会の第1回委員会が去る12月5日本館に於いて開催された。この委員会は、加盟館間の相互協力をより効果的にするため役員館6館をもって構成されたものである。

委員会では、初めに今村北大館長からこの委員会の設けられた主旨の説明があり、続いて委員会の今後のもち方について審議を行なった結果次の点を申し合わせた。

調査対象の範囲を ① 事務的に連絡調整出来るもの ② 事業的なものの二つに大別しこれ等につき北大がアンケートを行ないその結果をまって第2回委員会を開催することとした。

◆ 学内図書館たより

<附属図書館>

オーストラリア図書展示会

昨年12月12～18日本館展示室において「オーストラリアに関する図書展示会」が開かれた。これは昨年7月本館が在日オーストラリア大使館の好意により寄贈を受けた図書175点

(213冊)を展示したものである。これらの図書は主としてオーストラリアの地理・歴史・文学・民族誌・動植物誌・政治・経済関係の図書よりなり、その中には Flinders の“A Voyage to Terra Australis”や George Arthur の“The History of the Island of Van Diemen’s Land”など 19 世紀初頭のオーストラリアに関する貴重書の複製版、オーストラリア原住民に関する図書など珍しいものが含まれている。

わが国ではオーストラリアに関する研究書が甚だ乏しいので、これらの図書はオーストラリアに関心を有する人々にとって有益な参考書となることが期待される。このコレクションは「オーストリア文庫」として書庫 3 層に別置することになっているので、閲覧希望者は文庫名を明示のうえ中央カウンターへ請求されたい。なお受贈図書の明細は「収書通報」第 7 号に掲載される予定である。

英国文化協会寄託書を受贈

英国文化協会 (British Council) は英国の文化を国外に紹介し、英語を普及させることを目的として支部を世界の主要都市においている英国政府の一機関である。

本館は昭和 40 年より、東京の同協会が毎年わが国各地で開催する英国図書展示会の図書の一部について寄託を受けており、これらの図書は British Council Library, Hokkaido として参考図書閲覧室にコーナーを設けて利用者に貸出されている (昭和 43 年末現在 1,500 冊)。この寄託は当初の計画では、将来札幌に同協会のセンターが開設されるまでの一時的なものであったが、センターの設立が当分望めないこともあって、昨年末同協会の代表者 R.A.H. Duke 氏が来館された際に、本館寄託中の図書を本学へ寄贈する申出を受けた。これらの図書は近年英国で出版された人文・自然科学の広範囲な分野に及ぶ学術書で、精選された良書群である。

本館では上記の図書の大半を近く着工される教養分館に移して利用に供する予定である。なお Duke 氏の近信によれば、今後は毎年主として英文学・英語教育に関する図書が追加寄贈される筈であり、これは教養分館蔵書の充実に大きな役割を果すことになるであろう。

国内外の大学一覧収集を計画

参考図書閲覧室には国内外の大学や研究機関の一覧を配架したコーナーがあり、学内の教職員、学生にひんばんに利用され重宝がられている。これらの一覧あるいは要覧 (英語では Catalog, Calendar, Bulletin, etc.) は、ある大学について沿革・機構・教授陣・研究教科内容などを知りたい場合に、もっとも信頼のおける資料である。最近是他大学との研究協力のため、あるいは留学、出張などのためにこの種の資料を求められることが非常に多い。

しかしながらこれらの資料の収集は、本館が交換資料をもたないことにも原因があって、これまでのところ必ずしも充分なものでなく、とくに外国の諸大学について然りである。このため本館では昨年の図書館委員会で大学一覧の収集が要望されたのを機会に、今後これと積極的に取り組むことにした。このようにしてすでに昨年中に国内の主要大学に大学一覧の寄贈依頼を行ないかなりの寄贈を受けたほか、事務局文書広報掛の好意により事務局所蔵資料の多くを本館に移管した。さらに外国の大学一覧については、近く本学が発行する英文カタログを本館より発送することによって交換を求める予定である。この際に入手希望の外国の大学一覧があれば、参考掛まで申出ていただきたい。

なお諸大学の簡単な概要は、これらの大学一覧のほか、国内については全国大学職員録、

文部省職員録, 全国大学一覧, Japanese Universities and Colleges, また外国については Minerva, Index Generalis (1955 まで), World of Learning など参考図書閲覧室備付資料でも知ることができる。

諸言語の辞典続々入荷

本館では昨年から世界のあらゆる言語について辞典をもれなく揃えることを計画し、書店のカatalogや出版目録によって相当の部数を発注してきたが、これまでにかなりの数の辞典が入荷した。この計画では従来本館が所蔵していなかったか、あるいはすぐれた辞典が少なかった特殊な言語に特に意を払い、少数民族言語の辞典は可能な限りこれを収集することにした。これらの辞典は利用者は少なくとも、いざ必要な際にはどこにも類書を見出すことが困難であるからである。これらの辞典の収集がすすんだ暁には、大抵の言語の辞典は参考図書閲覧室で閲覧することができる筈である。

一般には辞典はその言語による注釈辞典がもっとも信頼できるが、特殊語の場合はその利用が非常に困難であり、また少数民族の言語の場合はそのような辞典が出版されていないので、本館の計画では特殊語の辞典は英・独・仏・露語など比較的によく知られた言語による対訳辞典を集めることにしている。現在本館所蔵の対訳辞典には、英独仏露語を除けば次のようなものがあり、多くは各々について数種類ずつを所蔵している。(括弧内は対訳語。E-英, G-独, F-仏, R-露, J-日)

Ainu (J, E)	Irish (E)	Slovene (E)
Albanian (E)	Italian (E, G, J)	Spanish (E, J)
Annamese (F)	Korean (J)	Swahili (E)
Arabic (E, R)	Kurdish (E)	Swedish (E, G, F)
Bulgarian (E, R)	Latin (E, G, J)	Syriac (E)
Chinese (J, E)	Latvian (E)	Syrjänisch (G)
Coptic (E)	Magyar (E, G)	Taiwan (J)
Czech (E)	Malayan (E, J)	Tamil (R)
Danish (E)	Manchu (R)	Tarahumara (E)
Dravidian (E)	Mongolian (E, G, F, R, J)	Tatar (R)
Dutch (E, G, J)	Nepali (E)	Thai (E, J)
Eskimo (E)	Norwegian (E)	Tibetan (E)
Esperanto (E, J)	Pali (E)	Tongan (E)
Finnish (E, G)	Persian (E, G)	Turkish (E, G, J)
Greek (E, G)	Polish (E, F)	Turkmen (R)
Hebrew (E)	Portuguese (E)	Ukrainian (E, R)
Hungarian (E)	Rumanian (E)	Urdu (E)
Icelandic (E)	Sanskrit (E)	Vietnamese (E)
Indonesian (E, G, J)	Serbocroatian (E)	

学位論文(旧制)目録作成

このたび本館で保管する本学審査による明治来の学位論文(旧制)約4,600の目録を作成した。

昭和42年6月から着手し、1人1人の論文に当り、さらに「日本博士録」により記載事項を補っていった。

この目録は、著者名目録で、学位請求の主論文、学位の種類、学位を授与された年月日、および出身学校を記載した。

又何十年來の包装をとき、新らたな袋に厚紙を入れ、論文がいたまないように入れかえ、利用に供しやすいようにした。

この学位論文は、「北海道大学審査学位論文利用内規」により、本学の教官、大学院学生が利用でき、館外貸出は教官に限り、1人1論文、30日以内とする。

尚、近い将来、この目録を冊子目録にし、各学部へも配附したい考えている。

北海道大学附属図書館 収書通報 No. 6 (1968, 5-9)

B5版 219頁 オフセット印刷 1968年12月刊行

資料紹介

日本地図選集 東京 人文社

本館では日本地図選集の一部を購入したのでその内容について紹介してみよう。

日本地図選集は、近代日本の黎明期を中心とした、各時代各分野の古版地図を選び編集したものである。

I. 文政 天保 国郡全図並大名武鑑

江戸後期における日本国別地図とその国に合わせて大名武鑑を編集したものである。

II. 嘉永 慶応 江戸切絵図

幕末嘉永年間から数種出版された江戸切絵図を代表する尾張板の完全復元したものである。

III. 江戸 時代 日本全国歴覧

江戸時代の代表的日本全図集

(1) 日本海山潮陸図

元禄4年、石川流宣の7色刷で約300年前より永久保赤水図が生れるまで約100年間のわが国の代表的な日本全図である。石川流宣の浮世絵師としての神経が細かく感じられ日本全図を絵にした美しさがある。

(2) 南胆部洲萬国掌葉之図

宝永6年、1色刷で仏典・漢籍による東洋式世界地図の代表的なものであり、古典によって地名をあげている。

(3) 日本景勝一覧図

天保11年、4色刷、約130年前観水掌井口氏が作る代表的な日本景勝図である。

(4) 日本輿地路程図

安永7年、長久保赤水。8色刷で貞享・元禄以来一般に使用された石川流宣の図に代り、江戸後期の日本総絵図界に君臨したものは長久保赤水の本図である。本図の特色は経緯度を示し地形を精確に現わし、地名以外の記事や絵などを除いて地名を多くし山川を詳細にし地図の本道を確立した。

(5) 日本道中図 嘉永年間、1色刷、嘉永年間より幕末までの20年間一般町人および百姓に数多く利用された懐(ふところ)絵図(案内図)である。

(6) 大日本国沿海略図

慶応3年、勝海舟。5色刷で、鎖国の解かれた新日本に生きた勝海舟は英国版海図併用の東洋図から本図を復刻して海洋思想の普及につとめた。

IV. 大日本管轄分地図

明治28年の分県地図で、この種のものとしては草創期の著作であり、案内記は県下をめぐって充分といえる。

(金木)

* ХОККАЙДО (HOKKAIDO) 北海道

Г. К. МЕКЛЕР (G. K. MEKLER) 1967 モスクバー

ソビエトは日本にたいして大きな関心がかかっているにもかかわらず、ソビエトの専門家たちは概して、北海道についてはほとんど書かなかった。この島に関する最後の著書、D・L・アルマン氏によって「北海道」が紹介されたのが1947年、それから20年を経て、ソビエトに一番近い日本のこの島に関する新刊書が発行された。それは、ソビエト科学アカデミー・アジア諸民族研究所員、経済学修士ゲオルギー・メクレル氏の小冊子『北海道』(137頁)で、1967年末、モスクワのナウカ出版社から発行された。

本書は、北海道の天然資源、鉱工業、農業、貿易等について述べている。特別の章で北海道とソ連極東との沿岸貿易の可能性が取り扱われている。メクレル氏は、こう書いている——「日ソ経済関係は、いま高揚期にある。この分野では最初の数歩がふみだされただけだが、両国間の経済関係拡大の前途は、きわめて明るい。日ソ経済協力の発展で、北海道に重要な役割がふりあてられるであろうことは争いのないところである。」

また、本書には、北海道の経済の現状を詳細に特徴づけている多くの表がのっている。K・M・ポポフ教授の序文には、「北海道にかんするこの新刊書は、わがソビエト国民がわが国と接している日本のこの地域をいっそうよく知るのを助けるであろう。」という確信を表明している。(金木)

四 季

農学部図書掛(室)

農学の研究および教育の中核的役割を果たしてきている農学部の起源は、明治5年東京に設立された開拓使仮学校に始まる。

その後、明治8年開拓使仮学校を札幌に移し札幌学校と改称、翌明治9年わが国に於ける最初の高等農業教育機関として、札幌農学校と改め開校された。以来、時代の変遷に対処し北大93年の歴史と共に今日に至っており、現在、8学科、42講座、附属施設6を有する。

図書掛(室)は、旧附属図書館を補修し昨年4月移転した。

学部共通の場である図書室の利用を円滑にすべく、本館から図書室の間13.2mを渡り廊下で接続されている。

図書室の面積は、事務室57.6m²、複写室13.8m²、教官閲覧室、マイクロリーダー室23.5m²、開架閲覧室180.9m²、新聞、雑誌展示室51.1m²、書庫263.5m²、学科、施設図書室581m²、となっている。

移転前の図書掛(室)は、施設(書庫、閲覧室)の設備がなく、中央図書室としての機能を発揮することに、いろいろな支障が生じていたのであるが、移転した現在、中央図書室と学科、施設図書室との有機的連絡形体を確立し、広く利用者に対して、最も効率的に運用されるよう図書委員会において検討され、徐々に改善整備されつつある。

図書室の人員は、中央図書室11名(内臨時職員4名)、学科、施設図書室8名(現在学科、施設所属)からなる。

本学部の蔵書数、受入雑誌種類数は、昭和42年度現在、別表のとおりである。

蔵 書 数

和 書	89,830 冊
洋 書	69,452 冊
計	159,282 冊

受 入 雑 誌 種 類 数

和 雑 誌	1,050 種
洋 雑 誌	769 種
計	1,819 種

日常業務のなかで、昭和37年以来分散所蔵されている図書資料の利用を円滑にすべく、新着図書目録を作成配布している他、所蔵図書のインスペクションを行なっているが、図書室拡充と、年々増加する新着図書との併行整理上、現在の人員では業務渋滞となり、まだまだなさなければならないサービス活動に支障をきたしている現状である。

本学部は、1902年以来学部の研究機関誌として、次の紀要、報告を出版、関係機関と交換、寄贈している。

Journal of the Faculty of Agriculture H. U. (改題略) Vol. 1 (1902) ~ Vol. 56 No. (1968)

北海道大学農学部邦文紀要 第1巻(昭28) ~ 第6巻第3号(昭43)

Insecta Matsumurana Vol. 1 (1926) ~ Vol. 31 No. 5 (1968)

農経論叢(改題略) 第1輯(昭6) ~ 第24輯(昭43)

北海道大学農学部附属牧場研究報告 第1巻(昭40) ~ 第4巻(昭43)

〃 植物園研究報告 第1号(昭39)

〃 演習林研究報告(改題略) 第1巻(大4) ~ 第25巻(昭42)

〃 演習林業務資料 第1号(昭29) ~ 第12号(昭41)

〃 農場特別報告(改題略) 第1号(昭4) ~ 第17号(昭42)

北海道大学農学部：紀要総合索引(欧文、邦文、Insecta、農経論叢の4種類の創刊号より昭和39年迄の発行されたものを含む) 1965刊

本館が受贈した本学教官が出版した著作物 (第1回)

本館では閲覧室内に本学教官著作物コーナーを設け、本館が受贈した本学教官が出版した著作物を備え付け利用に供していますので、最近受贈した著作物を紹介します。

文 学 部

野田寿雄 雨月物語全訳、古典とその時代、西鶴、近世文学の背景(搞選書41)、日本古典全集、仮名草子集上、同下

教 育 学 部

竹田正直 総合技術教育関係文献目録 No. 1 (日本語文献)

法 学 部

小山 昇 現代法律学全集 22 民事訴訟法、五十嵐清 比較法入門、名誉とプライバシー、矢田俊隆訳 マイネッチ世界主義と国民国家 I

理 学 部

神原富民訳 デラヘイ機器分析、神原富民・長谷部清訳 新しいポーログラフイー、牧野佐二郎 牧野佐二郎教授還暦記快論文集、東屋五郎 代数学II (現代数学5)

薬 学 部

有田隆一 製剤物理化学

本学教官が出版した著作物 (単行本) 第5回

薬 学 部

岩本多喜男・山田 澄 最新薬物理学(昭和40年)、伴 義雄・北川晴雄・高木高明・中垣正幸・岡本敏彦・奥井誠一・高木博司 医薬品研究法(昭和43年)、有田隆一・中垣正幸 製剤物理化学(昭和43年)、石本真訳(ア・ゲ・パシンスキー著)生物物理化学(昭和43年)、三橋 博 生薬学(昭和33年)、浜口浩三 タンパク質の立体構造(昭和42年)

北海道大学附属図書館報 「楡蔭」 Vol. 3, No. 1 (通巻13号)

1969年1月30日発行 発行人 斉 木 一 郎

発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北8条西5丁目 電話代表 71-2111 (2966)

印刷所 文栄堂印刷所 札幌市北3条東7丁目 電話 23-5560